



Vol.43

秋を告げる声

秋の深まりは、色づく木々やどことなく寂しげな風の匂いから感じることができますが、百舌鳥の鳴き声もまた、秋の訪れとともに盛んに聞こえてくるようになります。

この歌からは、秋の野という広い風景イメージから尾花(ススキ)の穂先へと視点が凝縮されてゆき、そこで鳴いている百舌鳥の姿と声が鮮明に浮かび上がります。目だけでなく耳でも感じる秋の深まりを、恋しい女性に歌いかけた一首です。

その百舌鳥は、なかなか怖い鳥でもあります。百舌鳥には「百舌鳥の速贅」で有名な、捕らえた獲物を木の枝などに突き刺す習性がありま

秋の野の尾花が末に鳴く百舌鳥の
声聞きけむか片聞く吾妹

作者未詳

巻十

二一六七番歌

【訳】 秋の野の尾花の先に鳴く百舌鳥の声は、さすがに聞いただろうか。私のいうことは半ばにししか聞かない吾妹よ。

す。これは、中国の書物『呂氏春秋』ではなかったと思われる。

に3世紀に付された注に、百舌鳥のことともされる伯勞が獲物を磔にする」と記録されていることから、古くから知られていたようです。

また、『日本書紀』仁徳67年に、陵墓築造中の土地で突然死した鹿を調べてみたところ、百舌鳥が鹿の耳の中を食い破っていた、という記述もあります。百舌鳥の獐猛な一面を示すエピソードで、仁徳天皇の陵墓のある土地「百舌鳥耳原」(現大阪府堺市)の地名起源説話になっています。

「百舌鳥」の漢字表記の由来は、百舌鳥が多くくの鳥の鳴き声を真似るところからきていると言われます。ただ、この歌を詠んだ人物が聞いた鳴き声は、さすがに「百舌鳥の声」と歌うからには、他の鳥の鳴き真似



曾爾高原

日本300名山の一つ俱留尊山。この山から亀の背に似た亀山を結ぶ西麓に広がるのが「曾爾高原」です。曾爾高原は、一面見渡す限りのススキが群生し、3月中頃に毎年「山焼き」が行われ、春から夏にかけては、一面に青い絨毯が敷かれたような爽やかな姿を見せます。秋にはススキの穂が日射しを浴びて銀色・金色に輝き、夜には、約200基の灯籠がススキを照らす「曾爾高原山灯り」が11月23日(祝)まで行われます。



問 曾爾村企画課観光係
☎0745-94-2106(内線266)

